

JCO臨界事故を忘れない、原子力事故をくり返させない  
2015年9.30茨城集会

## 日本原電の放射性廃棄物埋設処分計画に関する特別決議 (案)

原発推進は、処理の見通しのない「核のゴミ」をさらに増加させる、もったも無責任なものであります。「エネルギー計画案」は、「最終処分」を「将来世代に先送りしない」などといっています。しかし、使用済み核燃料を安全に「再処理」する方法も、「再処理」した後の高レベル・低レベルの放射性廃棄物を「最終処分」する方法も、人類は持ち合わせていません。

すでに、多くの原発では使用済み核燃料を貯蔵するプールが満杯近くになっています。「核のゴミ」の問題を考えても、「即時原発ゼロ」の決断が強く求められているところです。

日本原子力発電(株)は、廃炉作業中の東海発電所の解体作業に伴って発生した放射性廃棄物の金属撤去物、コンクリートガラ、コンクリートブロック、その他周辺機器を鉄箱、フレキシブルコンテナなどに収納し、総量約16,000トン、放射性物質濃度1兆7000億ベクレルに達する大量の放射性廃棄物を原電構内の砂地に長さ100m、幅80m、深さ4mもの大規模なしかも素掘りの穴に埋設し最終処分場とする計画です。これでは放射性廃棄物が漏れ出し、環境を汚染することは明白です。

今後、国内各所の原発廃炉作業で発生した放射性廃棄物処理の先駆けとなることは明らかです。

また政府が狙っている福島原発で発生した大量の放射能汚染土埋設の道を示すこととなります。

放射線障害、海洋汚染・環境汚染を伴うこのような素掘り埋設による「最終処分場」にすることなく、放射線を遮断し、耐震、津波などの対策を十分行なった施設で厳正に管理保管すべきです。9.30集会は次のことを要求します。

1. 日本原電は、放射性廃棄物L3の素掘り埋設処分計画は中止し、放射線を遮断し、自然災害対策を十分行なった施設で厳正な管理保管をすること。

以上